

10/17
朝日

元助役関係会社への発注工事

関電7割、事前に情報伝達

関西電力の役員ら20人が福井県高浜町の森山栄治元助役（故人）らから計約3億2千万円分の金品を受け取っていた問題で、関電が森山氏の関係会社に発注した工事121件のうち、75%にあたる91件で概算額などの情報を事前に森山氏に伝えていたことが分かった。関電は不正はなかったとするが、近く設置する第三者委員会が改めて調査する。▼6面〓社説、25面〓県幹部にも贈答品

関電の社内調査報告書や関係者によると、調査対象とした2014年9月〜17年12月、関電は森山氏が顧問を務めていた土木建築会社「吉田開発」に対し、原子力事業本部と京都支社だけでなくも計121件の工事を発注した。原子力事業本部が直接発注した22件のうち16件、ゼネコンなどの元請けを通じて間接発注した91件のうち67件の情報が、事前に森山氏に渡っていた。京都支社が発注した社宅工

事など8件は、すべて事前に情報を提供していた。役員らは森山氏から面会を求められた際、提供できる情報がないか総務部長らを通じて確認させていた。土木建築部門や元請けに聞き取り、実施予定の工事量や概算額をまとめた資料を作成。役員らはその資料をもって面会に臨んでいた。面会では森山氏が金品を渡すことがあり、吉田開発が金品を用意したと思われる例もあった。吉田開発側

が同席することもあったが、情報提供時にはいったん席を外していたという。報告書は「契約交渉に悪影響を与えるおそれがある」などとして情報提供が不適切だったと指摘。だが「情報提供日に限らず、かなりの頻度で金品を持ってきた」などの理由から、金品は情報提供の見返りではないと結論づけた。関電は別の地元の企業や有力者から聞かれば、工事の概算額などを伝えることはあるとしている。ただ報告書は「森山氏に対して、より詳細な情報が提供されている」と指摘。岩根茂樹社長も2日の記者会見で「吉田開発側への情報提供は非常に多いと感じている」と認めている。

（西尾邦明）